

全電源喪失の記憶

証言 福島第1原発

■ 第5章「命」

3月16日朝、大熊町の横山恵(33)

は避難先の栃木県大田原市内の親類

宅に身を寄せていた。福島第1原発

事故が起きた11日夜、最初の避難先

となった大熊町役場裏の体育館で、

夫の横山英治(37)は「明日には帰れ

ると思っ」と言い残して原発に向か

った。以来、何の連絡もない。テレビで

は連日、建屋が爆発した際の映像が

繰り返し流れていた。

恵の携帯電話にメールが着信し

た。夫だった。メールには、復旧班

計測制御グループの夫が電源喪失し

た中央制御室でバッテリーを使って

計器を生かそうと作業し続けたこと

や、15日に福島第2原発へ避難した

13

妻に届いたメール

ものの、その日の夜に第1原発に戻

ったことが書かれていた。

「みんな戻ってくると思っただん

だ。戻ってこないんだ。見捨てら

れたのかな。そ

れとも相当やば

い状況なのか

か。80歳を超えた女性が「大丈夫

な」。メールか

だっか。大丈夫だろうか」と泣い

ていた。現場の人間の安否情報がな

し、気がもんでいた。爆発だけが

7年前に結婚する際、原発事故が

をしたのは誰なのか、家族は無事な

あつたらどうするか尋ねる恵に夫は

「絶対そんなことないと思っけど、

危険なくなったらおまを連れて真っ

先に逃げる」と言っていた。

返信「俺は逃げん」

現場に残っている人たちが大勢いる道してくださ。報道してもらえれ

た。恵は12日から14

日まで避難していた三春町の体育館

人たちも安心すると思っんです」。

で出会った人たちのことを思い出し

途中から泣き声になった。

後日、家族を残して事故現場で命

懸けの作業に当たる人たちがいる」

とが紙面に載った。

7年前に結婚する際、原発事故が

をしたのは誰なのか、家族は無事な

あつたらどうするか尋ねる恵に夫は

「絶対そんなことないと思っけど、

危険なくなったらおまを連れて真っ

先に逃げる」と言っていた。

うそつき…。

再会できたのは3月24日だった。

バスで東京駅に着いた夫を、横浜市

に避難先を移っていた恵が迎えた。

「もしも一度事故が起きても、絶対に行かない」と夫は言います

けど、だんさんまだ行くんでしょっね。

でもそっいつ夫を誘ひに思っていま

す」(敬称略。年齢、肩書は当時。共同通信 小野田真実)



相次ぐ原子炉建屋の爆発でがれきが散乱する東京電力福島第1原発=2011年3月15日(東京電力提供)

「俺は逃げん」
上で言った。
恵は新聞社に電話をかけ名乗った
た。恵は新聞社に電話をかけた後、
「第1原発にいる夫から『俺は
うな覚悟で事故
してない』と連絡がきたことを報
共同通信 小野田真実)

「俺は逃げん」
上で言った。
恵は新聞社に電話をかけた後、
「第1原発にいる夫から『俺は
うな覚悟で事故
してない』と連絡がきたことを報
共同通信 小野田真実)